

# 令和7年度 第3回大野市公共交通活性化協議会

## 議事録概要

○日 時：令和8年2月18日（水）10：00～11：30

○場 所：結とびあ 302号室

### ◆次 第

#### 1 開会

・会長挨拶

#### 2 議題

##### (1) 京福バス大野線のダイヤ等改正について

・事務局から、資料1について説明

意見：京福バス大野線の見直しについては、福井県として、京福バス、大野観光自動車、福井市、大野市とワーキンググループを開催してきた。運転士の数、財源も限られる中で、関係者の調整のおかげで利便が向上したと考えている。一部、済生会病院止まりだったものも福井駅まで延伸するなど、短い時間の中で作り上げることができた。感謝申し上げたい。

意見：利便性が高まったように感じる。

**異議なし**

結果：承認

##### (2) 乗合タクシーの変更事項について

・事務局から資料2について説明

運行事業者：利用者減少のなか、利便性向上のため提案した。今後、予約時間1時間前を早めたり、帰りの便だけフルデマンドにできないか事務局には伝えている。より良いものになるようご理解・ご協力をお願いしたい。

意見：まちなか停留所にヴィオ、あつ宝んどを追加するという事で利便性は向上すると感じている。

ヴィオは京福バス大野線・勝山大野線の終発停留所、あつ宝んどは勝山大野線の停留所になっている。路線バスとの相互利用につながるような周知をお願いしたい。

**異議なし**

結果：承認

##### (3) 市営バス和泉大野線の回数券の改正および停留所の新設について

・事務局から資料3について説明

意見：実施時期は4月1日か

事務局：4月1日から。

意見：回数券の有効期限が無くなるということで、例えばJRの1か月定期券を購入したうえで、大量に回数券を購入すれば、定期券の期限が切れたあとも安価に購入した回数券が使えることになってしまうが対策は。

事務局：運用の中で対応したい。例えば、所持している定期券の期間の範囲内で回数券を販売するとか。現状、和泉地区の高校生しか購入者はいない。運行事業者とも情報共有しながら、制度の悪用などないようにしていきたい。

#### 異議なし

結果：承認

### 3 報告事項

#### (1) 令和7年度公共交通の利用実績について

・事務局から資料4について説明

意見：乗合タクシーの利用状況の中で、酷暑の影響で8月の利用者が少なかったという説明について、もう少し詳しく説明を求める。会員制の導入で待合の負担は減ったと感じているが如何か。

事務局：2点推察している。1つは、まちなか循環バスの利用者も大幅に減少していることから、外出自体が減ったということ。もう1点は、自宅へは送迎するものの、定時便という性質上どうしても目的地でお待ちいただく必要があるため、酷暑の影響を受けたのではないかと捉えている。

運行事業者：まちなか循環バスに関して、利用者が令和元年度並みに戻ってきた。土曜日曜祝日に運行していたボンネットバスが故障により運行不能となった。乗合タクシーについては、ダイヤが決まっていることで不便をおかけしていることがあるので、外出機会を増やすためにもいろいろ検討していきたい。下庄線については、運行ルートの途中で集団登校している児童を見かける。雨や雪の日も元気よく歩いている。大雪の日などは、歩道を歩けないこともある。普段乗らない子たちにも乗ってもらえるといいと感じている。

事務局：教育委員会に共有しておく（教育総務課担当に確認：（学校にも確認し、）乗車を規制することはないが、集団登校を基本としている地区であり、個別で乗車利用となると、集団登校の体制が維持できなくなるなど、登校の安全性確保に不安があるため、現状維持でお願いしたいとのこと。）

運行事業者：市営バス和泉大野線について、特に学生利用の利便が向上することについて、お礼。一方、和泉乗合バスの利用が増えていない。利用が無くなった地区もある。利便性が悪いという声もある。定時便でないため、自由度が高すぎて高齢者には使いづらい。地区ごとに運行のあり方があっていいのではないかと。少しずつ見直しの検討をお願いしたい。

事務局：制約の範囲内で出来る限り利便性を上げたいと考えているし、要望に対しては検討したうえで対応してきている。細かい部分含め相談してほしい。住民の方がどうお困りなのか、知りたい。

#### (2) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金（フィーダー補助）の交付申請について

・事務局から資料5について説明

意見：運行割合と補助対象経費が出ているが、通常は、運行割合が高いほど運賃収入があって、運行経費は低くなる傾向にあるが、大野市では、運行割合が高いほうが運行経費も高くなっている。どういう理由か。

いずみタクシーの件（和泉地区におけるデマンド運行の件）についても、運行割合と運行経費の関係を整理できれば見直しにつながるのではないかと。受益者負担の観点が見直しのヒントになるのでは。

事務局：細かい部分まで即答できないが、利用が大きければ経費は下がるものと理解している。大野市の乗合タクシーでは、運行していない「待機時間」についても経費として計上しているため、運行割合が運行経費に相関していない。（発言はできなかったが、路線ごとに片道の運行時間が違うため、待機時間についても同様に、運行率と運行経費に相関関係がない状況となっている）

走った分だけ経費として計上するなど（当然、待機時間についても担保できないと運行委託は難しいと考えている。最低限の待機経費＋運行率が上がれば上乗せなど）、考えていきたい。

意見：どのようなやり方がベストか、乗務員の確保もあるし、待機を経費で見るのは当然。構造の部分、受益者負担の部分など整理していくのもひとつの方法なので検討を。

### （3）令和7年度事業の進捗について

- ・事務局から資料6について説明

意見：いろんなことにチャレンジすることは重要。一方で、大野市では地域公共交通計画を策定しているなかで、屋上屋を架すことにならないか、精査しながら進めていってほしい。

## 4 その他 特になし

## 5 閉会

【会議の様子】

